

鳥取市政懇話会（第5回）「地域産業活性化」部会 協議内容

- 1 日時 平成22年8月31日（火）午後2時45分～4時00分
- 2 会場 鳥取市役所本庁舎4階第2会議室
- 3 出席者 委員（9名）、企画調整課 井上

4 議事概要

（1）倉吉商工会議所への視察について

資料に基づき事務局で簡単に説明。

（2）意見交換

「農商工連携を推進する具体的取り組み」

- 委員 倉吉の「新産業共通基盤」は積極的。民間がサポートし、マーケットに打って出る姿勢が明確。参考になった。
- 委員 規格外品がどの作物でどの程度あるか。柿、梨、シイタケなど。付加価値をつけていくことが大事。
- 委員 エゴマ、ヒマワリなどが注目されている。鳥取でも作っていると聞いた。
- 委員 エゴマやヒマワリは、メディアでの話題が先行している部分がある。生産が少ないので希少価値はある。
- 委員 倉吉の、商店街との連携は興味深い。
- 委員 パーマ屋にはなししゃぼん、肉屋には梨を使った焼き肉のたれやケチャップといったように、1か所におくのではなく、それぞれの店舗に鳥取産品を置いている。
- 委員 すべてふるさとプロデューサーの福井さんが取りまとめているとのこと。
- 委員 販路開拓は難しい。商店街ぐるみの販路開拓はユニークで効果的。
- 委員 建設業者とタイアップして、竹炭の生産販売に力を入れては。
- 委員 建築業者は、竹炭の性能次第で使うかどうかを決める。鳥取の竹炭はあまり性能が良くない。三重大学が性能分析を行っている。
- 委員 耕作放棄地が目立っている。農家だけに頼っていても解消しない。市内の建設業者を集めて、説明会を開いてはどうか。
- 委員 生産量が少ない作物は、農業者にも働きかけをしていく。生産量を増やして商品化していく。
- 委員 農業者サイドと商工業者サイドの、産品や技術のマッチングができていない。マッチング組織を作るように提言してはどうか。
- 委員 農村地域の加工グループは規模が小さく、生産加工販売を全部自分

たちでやってきた。農商工連携が広がれば、大きな組織で大きな販売網に売っていける。

- 委員 組織を作るといふ提言をしたい。生産者、JA、商工会が核となり、産業技術センター、産業振興機構、大学や行政がサポートする。
- 委員 販売業者にも協力してほしい。マルイががんばっている。大丸にも鳥取の産品のコーナーがある。マーケットさえあれば、鳥取のものは売れる。

(3) その他

次回開催は平成22年12月に変更になりました。